

白は良いイメージの色で、黒は悪いイメージの色
という印象を持つ日本人は少なくないだろう。白は
汚れのない色で、光を表し、黒は汚れを表す色で、
闇を表す。そんな想像が働くからかもしれない。

結婚式の色は白、花嫁のウェディングドレスの色であり、出席者は白のネクタイを締める。一方、葬式の色は黒、参列者はみな黒の喪服を着る。黒いネコやカラスを見ると、死を連想し、縁起が悪いと感じる人もいるという。

スポーツの試合に勝ったときは白星、負けたときは黒星と言い、事件が起きたとき、警察は容疑者が犯行を犯していたときはクロ、犯行を犯していなかったときはシロと言う。

こうして見ると、白にくらべて黒はマイナスの印象があるが、はたして黒はそんなに縁起の悪い色なのだろうか。

白は純粹だが未熟さを表す色、黒は円熟を表す色である。子どもには白い服が似合うが、大人に似合うのは黒い服である。柔道で弱い人が締める帯は白帯であり、強い有段者が締める帯は黒帯である。素人と玄人、言葉のなかに「しろ」と「くろ」が入っているのには、それなりの理由がある。

東洋人の黒髪には光沢があり、若さを表している。白髪は老化をイメージさせるため、年を取ると髪を黒く染める人が少なくない。エレガントな黒は高貴な美を表し、寒い季節になると、女性は黒いストッキングをはいて、自分の足を細く美しく見せる。

黒はフォーマルな印象を与え、就活に励む人は黒い服を身につける。黒は何物にも染まらない色である。そこで、裁判官は中立な立場を表すために、黒い服を着て裁判に臨むのである。